

専大勢 輝く

冬季アジア札幌大会

冬季アジア札幌大会(2月19〜26日、北海道札幌市・帯広市)で専大勢が魅せた。クロスカン トリースキーで馬場直人(経営2・中野立志館高)が男子4×7.5キロリレーで金メダル、15キロリレーで銀メダルを獲得。スピードスケートでは土屋長輔(経営4・婦恋高)が男子5000メートル、1万メートル、チームパシュートの3種目で銀メダルに、近藤太郎(経営4・駒大苫小牧高)が1500メートルで銅メダルに輝き、平昌五輪に期待をつないだ。

馬場が金、銀メダル獲得

クロスカントリースキー札幌市白旗山競技場
男子4×7.5キロリレー、馬場直人は日本チームの第3走者としてレースに臨んだ。第2走者の力走でチームはトップに。馬場は21分18秒1で滑り、リードを死守。1位のままアンカーにつなぎ金メダル獲得に貢献した。

男子4×7.5キロリレー、馬場直人は日本チームの第3走者としてレースに臨んだ。第2走者の力走でチームはトップに。馬場は21分18秒1で滑り、リードを死守。1位のままアンカーにつなぎ金メダル獲得に貢献した。

土屋 3種目で銀

スピードスケートIIで優勝を許した韓国のイ・スンフン選手の13分18秒56を意識した戦いとなった。イ選手は2010年カナダ・バンクーバーと13分23秒74でのフィニッシュに苦しい表情を見せた。アジア大会に照準

スピードスケートIIで優勝を許した韓国のイ・スンフン選手の13分18秒56を意識した戦いとなった。イ選手は2010年カナダ・バンクーバーと13分23秒74でのフィニッシュに苦しい表情を見せた。アジア大会に照準



積極的な滑りを見せた土屋



ダイナミックなフォームでリンクを駆ける近藤

近藤は銅

短距離の近藤は1500メートルを攻めの姿勢で滑り切り、1分47秒88をマークした。シーズンベストには及ばなかったが、「タイムが良かった時の感覚は戻ってきているが、45秒を切らないと世界で競うのは厳しい。自分には圧倒的な強みがあるわけではないが、一つ一つ集中して挑みたい」と今シーズンを締めくくった。(岡野希春・経済4)

短距離の近藤は1500メートルを攻めの姿勢で滑り切り、1分47秒88をマークした。シーズンベストには及ばなかったが、「タイムが良かった時の感覚は戻ってきているが、45秒を切らないと世界で競うのは厳しい。自分には圧倒的な強みがあるわけではないが、一つ一つ集中して挑みたい」と今シーズンを締めくくった。(岡野希春・経済4)

神の左 12連続防衛

山中慎介さん
日本記録に王手

3月2日、東京・両国

国技館でボクシングWB Cバンタム級タイトルマッチ12回戦が行われ、チャンピオンで専大OBの山中慎介さん(平17商II)が同級6位のカルロス・カールソン(メキシコ)に七回57秒TKO勝ちした。12連続防衛は日本歴代単独2位。次戦は具志堅用高氏が持つ13連続防衛の日本記録に並ぶことが期待される。

試合は山中さんの代名詞「神の左」が何度も炸裂した。五回、左カウンタで最初のダウンを奪うと、ロープ際に追い込んで2度目のダウン。七回にガードの間を突いた左ストレートでこの試合5度目のダウンを奪ったところで、レフェリーがストップをかけた。試合後のインタビューで「記録は気にしてはいないが、ファンのみなさんが楽しんでくれればいいし、期待に応えたい。次の試合に向けてやっていく気持ちがある。湧いてきたので応援してくださいたい」と、満場を沸かせた。(飛田翼・文2)

都合により写真を掲載いたしません。
紙面をご覧ください。

三回、左ストレートを放つ山中さん(左) =スポーツニッポン新聞社提供

エネルギーとなる熱の三つをテーマに、「良いリーダーは先のことを予見できる能力が重要」と語りかけた。引き続き、清宮監督と本学ラグビー部の村田監督との対談が行われ、2人は体験を語り合った。

リーダーキャンプ 清宮氏が講演

都合により写真を掲載いたしません。
紙面をご覧ください。

清宮氏(右)と村田監督による対談 =撮影・石崎愛奈(法2)

53回専修大学体育会リーダーキャンプが静岡県伊東市で行われ、主将・主務計100人が参加した。初日は小林忠広氏(スポーツコーチング・インシアチブ代表)によるワークショップを実施。参加者は悩みについて話し合い、解決策を探った。2日目はラグビートップリーグのヤマハ発動機ジュビロの清宮幸幸監督が講演。「チームの持つ個性・スローガンの重要性。周りの人々を動かすのを確認することができた」と話した。(飛田翼)

専大スポーツ

No. 372

大会結果 予定は体育会ホームページ(専大ホームページ「スポーツ」からアクセス)で確認ください。専大スポーツ編集部 web (http://sensupo.web.fc2.com/) 大会結果を配信しています。

15キロフリーで2位に入った馬場 = 共同通信社提供

世界距離別1万メートルの世界距離別選手権(2月9〜12日、韓国・江陵市)に、土屋長輔、近藤太郎が出場。土屋が1万メートル(7位)で日本記録の13分11秒94を保持。レース後はコーチ陣

とハイタッチを交わし、会場からの拍手に応え「今年度の目標が本大会入賞と日本記録更新だったので自信にしたい」と語った。(岡野写真)

2018年に開催される平昌五輪の開催リンクで実施されたスピードスケート

2月27、28の両日、部の思考と技能を身につけることを目的とした「第